

集 会 ア ピ ー ル (案)

いま、平和の確立と軍縮の推進を求める道民・市民の声を無視して、米国海軍第7艦隊イージス艦「ジョン・S・マッケイン」が入港した。

度重なる米国軍艦の入港は、石狩湾新港をはじめとする民間商業港を準軍港化として固定化し、「日米新ガイドライン」による自治体協力をなし崩しに進めるものであり、軍事的役割を求めるものである。

寄港目的は、「友好・親善」であるとしているが、商業港である石狩湾新港に巨大軍艦を乗り付け、「日米地位協定」により繫留経費さえ支払わず、我々国民の税金を負担させてまで「友好・親善」を強いられる理由はない。

乗組員による犯罪が多発しており、同様の事件発生を石狩市民は不安に思っている。

外国軍艦の入港が度重なることになれば、商業港としてのイメージ悪化は避けられず、核兵器廃絶平和都市宣言を行っている石狩市民の意思に反することになる。

また、商業港の経済活動に大きな支障を発生させ、港湾労働者をはじめ、関係者に不利益をもたらす恐れがある。

我々は、本集会を通じ、集会参加の仲間とともに北海道の平和と軍縮、そして世界の平和と軍縮の拡大を目指す立場から、このイージス艦「ジョン・S・マッケイン」の石狩湾新港寄港には断固抗議し、石狩湾新港の準母港化・準軍港化に反対する戦いを粘り強く展開する。

以上、宣言する。

2008年2月6日

米イージス艦「ジョン・S・マッケイン」の
石狩湾新港寄港に反対する全道集会